

(回答 1 : 渡邊顕彦)

近代ではなく近世になりますが、日本人用に日本語(ローマ字表記)の記述がみられるラテン語の文法書および辞書としては以下が確認されている最古のものです :

・ Emmanuelis Alvares Societate Iesu, De Institutione Grammatica、天草 1594 年。活用、統辞、韻律の説明のほか、ギリシア文字とギリシア語文法の情報も若干あり。記述は主にラテン語ですが幾つかの活用表に日本語例が併記されています。豊島正之(等)編の復刻版(八木書店、2012 年)あり、この版に原書の作成過程等について詳しい紹介がされています。古典作家から引用された例文も豊富にあり、これを基に教師について学べば古典~近世人文ラテン語の読み書きは出来るようになるはずです。

・ Dictionarium Latino Lusitanicum ac Iaponicum、天草 1595 年。岸本恵美編の復刻版(清文堂 2017 年)があり、原書の作成過程等について詳しくまとめてあります。なお <https://joao-roiz.jp/LGR/> でデータベース化されており検索可能です。収容語数は 26000 語程度(ラテン語)、ありそれぞれにポルトガル語と日本語の定義や説明、古典作家による用法もちらほら載っています。一応これがあれば基本的な古典~人文ラテン語文献は読めたはずです。

なお 16 世紀以降の日本におけるラテン語受容研究にお詳しい原田裕司先生によると、宮永孝『日本洋学史』三修社 2004 年、1-110 ページに有用な記述があるとのこと。

ほか江戸時代以降の文献については渡邊雅弘先生のリストをご覧いただきたいのですが、明治以降の文法書としては以下の 2 点が比較的早く、国会図書館の近代デジタルライブラリーからオンライン閲覧可能です :

- ・ 鈴木竜六 羅甸文典講義 1888 年
- ・ 大儀見元一郎 新約聖書に関する希臘語文典 1932 年

以上、お答えできたかわかりませんが上記について不明点がありましたら awatanabe@otsuma.ac.jp までお寄せください。